

おとなの学校新聞

VOL.24

日本介護老人保健施設
おとなの学校
岡山校

津山市日本原352

編集担当:大村

発行責任者

森 崇文

人生について考えてみる



去る平成二十五年八月八日、入所中のご住職様より「お盆」について法話を聞かせて頂きました。「お盆」の語源は古いインドの言葉からきたものだそうです。

お盆には亡き両親を始め、ご先祖様があの世から帰って来られるので、大切にもてなし、

心から感謝を捧げる事。近年、日本では人災や天災で苦しんでいる方が沢山おられます。このような人道の不幸に心を馳せる。すなわち「一隅を照らす」人としてどう生きるべきか。「お盆」という機会に今一度振り返ってみましょう。ご住職様の法話に大きく頂くなど、皆、熱心に聞き入っておられました。

最後におとなの学校のスタッフと利用者のご先祖様の為に、お経を読んで頂き、教室内は厳かな空気に包まれました。今月は「お彼岸について」のお話があります。

9月

夏の疲れと季節の代わり目の気候変化で体調を崩しやすい時期です。十分に注意をしましょう

今月のイベント

十七日 成果発表会
十九日 敬老会



ボランティア

五日 語り部・紙芝居
七日 吹奏楽(リトルウィンド)
十三日 太極拳
二十日 紙芝居
二十七日 美容講習
三十日 大正琴

成果発表会

目標に向かって努力をすることは何歳になってもその生活は充実し、生き生きとした自分を発見できます。

先月行われた成果発表会では、4名の方が作品作りや執筆、リハビリなど独自の目標を達成し、表彰されました。「自分史を残し、後世に伝えることは実に有意義である。」と、表彰者の一人がコメントを残されました。

父や母がどんな幼少期を過ごしてきたのか、あまり知らないという事に気づかされました。

大きな目標を持つ事も素敵ですが、日々の暮らしの中で小さな目標を達成し、積み重ねていく事の大切さを知りました。まさに継続は力なり。

夏の風物詩といえ

今年も当校の畑で沢山の夏野菜が実り、中でも日増しに育つ果実を目を細めながら収穫を待ち望んだ野菜は何と言ってもスイカ。大切にネットの中で守り育て、いざ収穫！という頃の写真です。ところで、スイカについて、皆さんはどれだけご存じでしょうか？ここで少しご紹介してみよう。

スイカの原産地はアフリカの砂漠と推測されており、エジプトでは4千年前に描かれた壁画も見つかっています。当時は主に種の方を食していた様です。その後ヨーロッパを経てアメリカへ渡り、品種改良がなされました。アジアの歴史は古く、インドからシルクロードを渡り、中国へ伝わったとされています。日本にはポルトガル人が長崎に持ち込んだとか、隠元禅師が中国から持ち帰ったとか、また岡山では弥生時代の遺跡から炭化した種が大量に発見された等、諸説ありますが、夏の風物詩としてなくてはならない物になりました。厳しい暑さを忘れ、瑞々しい果実を、利用者皆で美味しく頂きました。天の恵みに感謝！



新スタッフ紹介

言語聴覚士

出羽 由夏



8月から日本原病院との兼務になりました
よろしく
お願いします。

事務

大村 由佳



いつも明るく
笑顔で頑張ります。
宜しく
お願いします。

ぼたもちとおはぎ

「暑さ寒さも彼岸まで」と言われる通り、朝夕随分しのぎ易くなりました。

お彼岸に供え物として作られる「ぼたもち」と「おはぎ」は基本的に同じ物。呼び名の違いは、彼岸の頃に咲く牡丹(春)と萩(秋)に由来する。ぼた餅は漢字で「牡丹餅」と書き、おはぎは「御萩」小豆の粒をその季節に咲く牡丹や萩に見立てたものだそうです。